

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-運用(改訂2016年版、名古屋中環境機構環境配慮計画マニュアル2016) 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)北区平安二丁目計画	階数	地上10階
建設地	名古屋市北区平安二丁目2221番1	構造	RC造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	236 人
地域区分	6地域	年間使用時間	XXX 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	
竣工年	2022年3月 予定	評価の実施日	2020年10月5日
敷地面積	2,055 m ²	作成者	
建築面積	727 m ²	確認日	
延床面積	4,569 m ²	確認者	

外観パース等

図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
= BEE0.9 ★★★★★ S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★ C: ★ 標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+ このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆ ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+ このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	Q2 サービス性能 5 Q1 室内環境 3 Q3 室外環境(敷地内) 2 LR1 エネルギー 1 LR2 資源・マテリアル 2 LR3 敷地外環境 1

2-4 中項目の評価(バーチャート)	Q のスコア= 2.7		
Q 環境品質	Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
	Q1のスコア= 3.3	Q2のスコア= 2.8	Q3のスコア= 1.9
	音環境 3.2 温熱環境 3.0 光・視環境 2.9 空気質環境 4.2	機能性 2.5 耐用性・信頼性 3.0 対応性・更新性 2.9	生物環境 1.0 まちなみ・景観 3.0 地域性・アメニティ 1.5
LR 環境負荷低減性	LR のスコア= 3.1		
	LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
	LR1のスコア= 3.9	LR2のスコア= 2.7	LR3のスコア= 2.6
	建物外皮の熱負荷 3.0 自然エネルギー 3.0 設備システム効率化 4.8 効率的運用 3.0	水資源保護 3.4 非再生材料の使用削減 2.4 汚染物質回避 2.7	地球温暖化への配慮 3.9 地域環境への配慮 1.8 周辺環境への配慮 2.1

3 設計上の配慮事項	その他	
総合	遮音性能 T-2 のサッシを採用し遮音性能を高め、敷地内緑地面積を15%確保し緑化に努めた。	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
遮音性能 T-2 のサッシを採用し遮音性能を高めた。F☆☆☆☆建材の採用。	高度情報化社会に対応するべく、光ファイバーネットに対応可能とした。	敷地内緑地面積を15%確保した。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
潜熱回収型給湯器を採用し効率を向上させた。	節湯水栓と節水型便器を採用し、資源の有効利用に配慮した。	潜熱回収型給湯器を採用し、温暖化防止へ配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)北区平安二丁目計画

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル:

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v1.0)

重点項目		評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
1. 温暖化対策				3.6
LR1	エネルギー	3.9	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.9	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	1.0	0.05	
2. 自然共生				1.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045	
3. 循環型社会				2.7
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.4	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.7	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.6



2. 自然共生

評価点 = 1.3



3. 循環型社会

評価点 = 2.7



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。